

## ぶらっと山歩（さんぽ）

ススキの穂が壮観に波打つ「砥峰高原」と  
紅葉の名所・石龕寺から辿る「石戸山～高見城山」へ

文と写真：吉野会長

毎年のことだが10月も半ばを過ぎると何となく忙(せわ)しい気分になる。11月早々から控えている諸行事が12月半ばまで続き、一年の中で一番多忙な時期となる。ぶらっと山歩の余裕が出来ず気が滅入っていた矢先、大型台風21号が近畿地方南部を巻きこみ、神戸でも23日午前0時33分、最大瞬間風速45.9メートルという記録的数字を置いて通り過ぎて行ったのである。表題に挙げている場所への軽ハイクと登山の二つの山案内を、月末と月明けに控えていた為現地は大丈夫?・・・何はさて置き、台風被害を心配して下見山歩に飛び出した。

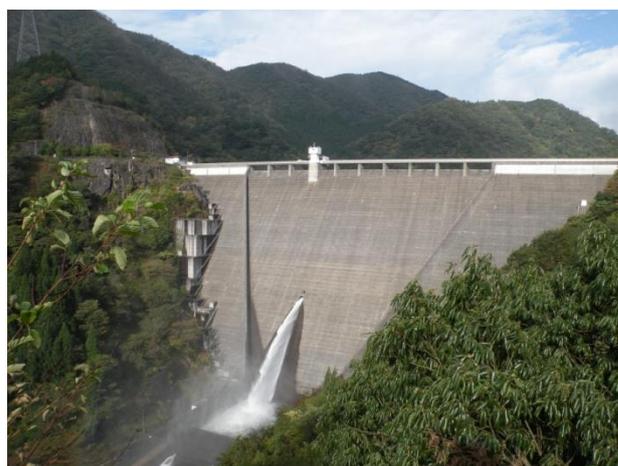
【10月26日・砥峰高原の下見へ】



砥峰高原の入口。右前方の建物が砥峰自然交流館

神崎郡神河町にある砥峰高原（とのみねこうげん）は、日本有数のススキの大群生地であり、山野草の宝庫としても知られている。雪彦峰山県立自然公園に属し、標高800～900mに位置する面積約90ヘクタールの草原である。砥峰高原行きは、筆者が市民毎朝登山で属しているM登山会の秋のバス旅行（軽ハイク）として、この季節ススキの穂が壮観に波打つ高原の

秋を存分に楽しんで頂こうとの思いから企画したものであった。



大河内発電所の下部ダムである長谷ダムが美しい!

播但連絡道の神崎南ランプを出、R8号を少し西へ行くとJR播但線寺前駅に出る。合流したR404号を播但線に沿って北へ走ると、R39号に出て西へ砥峰高原を目指す。台風21号はかなり南を通過したのか、このあたりに被害は見られなかった。それでもいくらかの強風が吹いたのか、杉や桧の小枝が車道に多く落ちていた。長谷ダムのある標高400Mぐらいまで来ると周りの山々が少しだが秋色を付けていた。ここから10分程で砥峰高原の玄関に着く。



陽が十分当たってくると穂先がふっくらするススキ群

この高原を訪れたのは何年？いや何十年前だろうか？播但線の寺前からバスに揺られ、どの辺りで下車し雪道をどれぐらいの時間歩いたのか？・・・定かでない。ただ雪の高原風景が、微かに記憶に残っているのみだ。・・・そんなことを考えながら周囲を散策していると、砥峰交流館を管理されておられるYさんとお会いすることが出来た。来週 40 名程お世話になることを伝え、散策に要する時間やおすすめコースなどを伺った。「この砥峰高原を一躍有名にしたのは、2010 年公開の村上春樹氏原作の映画「ノルウェイの森」の撮影地となって以来であり、その後、映画やドラマの舞台として度々利用されるようになった」ことも話して下さった。



高原をバックにドラマの看板が建つ記念撮影台

その後、穏やかな日差しの中、誰もいない高原を約 1 時間余り楽しんで次の目的地・小野市へ向った。(追記：本番当日は残念ながら雨！・・・筆者の責任ではございませんよ！！)

### 【10月27日・石戸山と高見城山の下見へ】



石戸山への登山口に建つ石龕寺石柱と岩屋山石柱

兵庫県山岳連盟が選定したふるさと兵庫 100 山を、長年にわたって企画し、ツアー募集して下さっているS会社が、11 月初旬に行うツアーの山案内をお引き受けしたための下見である。



紅葉の名所・石龕寺の参道（本番時の紅葉）

本番当日のコースは丹波市柏原にある「丹波悠遊の森」から高見城山へ登り、石戸山めざして南下する縦走コースを辿るのであるが、下見はマイカーで一人だけで行く為、ゴール側となる石龕寺（せきがんじ）から石戸山へ登り、一旦引き返して車で柏原側へ走り、高見城山の往復をしようと考えた。



奥が山門。その後の黒い岩山が鉱山跡の岩場

聖徳太子の開基と伝えられている石龕寺は足利尊氏やその息子とのゆかりが深かった寺として有名で、何よりも知られているのは高源寺（100 山・岩屋山の麓）、円通寺（氷上町・御油）とともに、丹波紅葉三山といわれる紅葉

の名所である。又、この寺の山門にある金剛力士立像は今から 775 年も前に造られたものだから、国の重要文化財に指定されている。石戸山へは途中まで 2 ルートのコースがあるが、左側の岩屋山経由は急登（当会の例会では左コースを登った様に思う）なので、奥の院や鉾山跡を経由して登る右コースを取った。



石戸山(548.5M)山頂



山頂の一等三角点表示

金屋鉾山跡の谷間では勤めを終えて放置されたままになっているブルドーザーが何とも哀れに見えた・・・

時間が惜しいので来たコースを急いで下山したが、それでも約 3 時間足らず費やしていた。

・・・・・・・・

石龕寺の駐車場を出て、水分れ街道(R175)を走る。丹波悠遊の森の駐車場に車を置き、足早に歩き始めた。



6 世紀頃の古墳群の一つ



高見城跡についての説明看板

夏場は多くの家族や子供たちで賑わっていたであろうキャンプ場に人影はなく、急な登りを急ぐ。先に登った石戸山は、その手前にある岩屋山に城があったそうだが大変急峻で、城造りは困難を極めたであろうと思う。こちら（高見山・現在は高見城山(たかみがじょうさん)と言う）はジグザグの急登ではあるが大変登りやすい。山頂は台地になっており、素晴らしい展望が開ける。向い側に望む山々の説明板なども設置され、子供達もキャンプと共に登山も行えば楽しい思い出作りが出来ることだろう。



案内当日、参加された方々の準備体操風景



案内当日の高見城山山頂にて

追記：高見城山へ登る時、慌てて車にカメラを置き忘れた。上の写真は案内当日のもの。尚、どちら側の山も台風被害はほとんど無く、案内当日は皆さんと共に楽しく歩くことが出来たことを記しておこう。